

<取組主体> 教養教育センター

<連携学部・研究科等>

文学部・心理学部・経済学部・経営学部・法学部・政策学部・国際学部・先端理工学部・社会学部・農学部・
学部共通コース（国際関係コース、英語コミュニケーションコース、スポーツサイエンスコース、環境サイエンスコース）

<申請代表者> 落合 雄彦 【教養教育センター長】

取組の目的及び概要

目的

- ◆ 教養教育の充実を通じて、本学の学士課程教育の充実をはかり、「幅広い学び」の保証に繋がるとともに、主体的に考える力を育成し、市民的教養を起動させる教養教育プログラム開発・実施を継続して展開。
- ◆ 第1期【2020-2022年度】に引き続いて、第2期【2023-2025年度】では、「現代社会の諸課題に対応できるよう、低年次に学修した基本をさらに深めつつ、学修により身につけた学術の方法を活用しながら、学問分野の枠組みを越えた思考の統合に結び付ける科目を配置し、学部専門教育との連携をはかる」ことを目指す。

取組概要

- ① 学部等教学主体と教養教育センターの連携による教養教育科目の充実
- ② 全学AL科目の開講
- ③ テーマをもった学びの誘導と学修者本位の履修モデルの検討
- ④ 「文理融合」「学部横断的な学び」を基調とする領域融合科目の設置

取組の成果

■ 学部等教学主体と教養教育センターの連携による教養教育科目の充実

- ✓ 新たな教養教育カリキュラムにおいて、各学部・コース等の教学主体、学内各センターからの科目提供を受け、学部専攻科目のうち専門教養的または共通基礎的な要素を含んだ科目やデータサイエンス教育やキャリア教育、ボランティア教育など、現代的ニーズを捉えた科目を開設した。

■ 全学AL科目の開講

- ✓ 2022年度から「教養教育科目特別講義」として、低年次向けAL科目「社会課題発見演習」を開講
- ✓ 2023年度には「教養教育科目特別講義」として、高年次向けAL科目「社会課題解決演習」を開講
- ✓ 上記2科目は、2025年度からの新たな教養教育カリキュラムにおいて、正規科目として開講
- ✓ 「学部・学部共通コース提供科目群」において、政策学部からの提供を受け、「地域課題発見演習」を開講

取組の実施状況

【2023年度】

- 「教養教育科目特別講義（社会課題発見演習）」開講
学修者が自らの「学びの課題」を発見し、テーマを持った学び」の羅針盤となるスタートアップ科目として位置付け
受講者数：
深草学舎 38名／ 瀬田学舎 18名 合計 56名
- 「教養教育科目特別講義（社会課題解決演習）」新規開講
学修者が社会課題の解決に取り組むことから学修者の知的躍動を引き起こし、学修者を「テーマを持った学び」に誘う科目として位置付け
受講者数：
深草学舎 9名／ 瀬田学舎 1名 合計 10名

【2024年度】

- 「教養教育科目特別講義（社会課題発見演習）」開講
受講者数：
深草学舎 24名／瀬田学舎 2名 合計26名
- 「教養教育科目特別講義（社会課題解決演習）」開講
受講者数：
深草学舎 22名／瀬田学舎 9名 合計31名
- 「教養教育カンファレンス2025」の開催
第1期・第2期合計5カ年に亘る事業実施成果報告の一環として開催。龍谷IP事業における成果報告に加え、「教養教育の新たな可能性」をテーマに、本学教養教育の新たな可能性を模索する機会として設定。

【2025年度】

- 新たな教養教育カリキュラムが始動
- 「社会課題発見演習」開講
2025年度から正規科目として開講。新カリキュラムのアクティブラーニング系科目として位置づけ
受講者数：
深草学舎 14名／瀬田学舎 3名 合計17名
- 「教養教育科目特別講義（社会課題解決演習）」開講
受講者数：
深草学舎 14名／瀬田学舎 2名 合計16名
- 「教養教育カンファレンス2026」の開催
龍谷IP事業の成果にとどまらず、教養教育にかかわる諸課題をテーマに、本学教養教育における組織的FD活動推進の一環として開催。大学教育の現状を踏まえた教養教育の在り方、「未来志向」の教養教育の在り方・可能性を考える機会とした。